The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	お祝いとお礼のことば
Author(s)	松村, 栄子
Citation	makoto. 1977, 20, p. 14-14
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86171
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

お祝いとお礼のことば

社団法人 大阪府衛生婦人奉仕会
会長 松村栄子

(財)大阪防疫協会がご誕生になって満三十年をお迎えになり、貴協会機関紙「まこと」の創立三十周年記念号を発刊されるという快挙に、お祝いのことばをのべさせて頂く光栄を得まして、心からお喜び申しあげます。

ことのほか暑かったことしの夏、毎日、朝夕の庭の打水のあと、露を受けてみずみずしく咲き誇る朝顔の大輪の花びら、ほのほのような赤いサルビアの花、かれんなかすみ草、赤と白のムクゲの花など、忙しい毎日の婦人会活動のあい間、家庭にくつろぐ私をほっと憩わせてくれます。縁側でだんだん緑の木々が夕べのとばりにつつまれていく中に、ほんのり浮かんでみえる花々のたたずまいと緑の風はすがすがしいやすらぎです。

そのようなとき、ふっと、蚊が少くなったなあと気づき、今さらのように、戦後から今日にいたるまでの貴協会のご活躍や私たち衛婦の「カとハエのいない美しい町づくり運動」の歴史をふり返らせてくれます。

私たちの衛婦よりひと足早く発足されました貴協会では、戦後しょうけつを極めた発疹チフスや伝染病を防ぐために、辻野理事長さまが先頭に立ち、ターミナルや町のあちこちで、DDTの散布にご活躍になられたとか—府はじめ市町村の防疫活動にご奉仕になられて、ようやく減少のきざしをみせてきましたころ、昭和二十四年には財団法人に改組されて、困難な独立への道を歩み始められました。自主的独自の防疫活動を一歩一歩つみ重ねて今日までご発展なさいましたことは、ひとえに辻野理事長さまの〝まこと〟を信条とする高潔なお人がらの反映と、理事長を支える職員の方々の一致団結による協力の賜ものであると、頭の下がる思いが致します。

私どもの衛生婦人奉仕会が、厚生省の「カとハエのいない町づくり」の呼びかけにこたえて府下の主婦が手をとりあい「健康で明るく住みよい地域社会の実現」を旗じるしに発足いたしましたのは、昭和二十九年でございました。

自分たちの健康はもちろん、家族や地域住民の健康を守り、自分たちの住む地域社会の環境をよくしようと、気持ばかりは意気さかんに発足した私たちでしたが、なにぶん主婦の集まりで知識なし、金なしのまことに微々たる組織でございました。府衛生部、市町村の担当者や関係団体のご指導ご支援と、関係業界のご協力を得て、大阪に衛婦ありと全国的に認められるようになりましたかげに、貴協会のひとかたならぬお力ぞえがあったことを、永い間の変わらぬご支援を、今静かにふり返り、かみしめております。

とくに衛婦が昭和四十年社団法人に改組以後は、自主独立して運営を進めることとなり、府補助金の半分は、支部事業の補助金として各市町村支部に流しているため、本部における指導者育成のための各事業、機関紙発行事業等の推進ならびに本部運営にあたっては、深いご理解と暖かいご支援の手をさしのべて頂き、法人衛婦の基礎固めのときの最も強力な支えとなり、深い感謝の念でいっぱいでございます。

時代の流れと共に、貴協会も本会も活動の分野が広がり、時には意志の疎通が阻害されたこともございましたが、共に同じ道に奉仕する基本理念は、小さな障害をとかし、本会の貴協会に対する感謝と信頼の念にゆるぎないことは、昔も今も同じでございます。

公益法人として幅広い防疫事業を進められると共に、常に新しい防疫環境事業を開発され、その益金を組織の発展充実、公衆衛生向上のために有益に活用され、各団体をご支援になるなど、その姿勢は、まことにご立派であると感嘆しております。

私、今も深い感謝と共に懐しく想い出しますのは、大阪府の大事業であった千里丘陵で開かれた万国博を成功させようと、昭和四十五年二月、衛婦が大阪城公園遊歩道に会員四百名を集めて万博踊りを行い、キャンペーン活動を行ったときのこと。

当時の厚生会館で開かれた大阪府環境衛生大会のあと、そろいのゆかたに身を固めた四百名の会員が、池田市の呉服小学校の鼓笛隊とバトントワラーを先頭に森の宮から大阪府庁までパレードし、そのあと、大阪城公園遊歩道で万博踊りを展開した、その大きな行事の後援を、ひと手に引き受けて下さいました。

防疫協会は影に回り、衛婦が大きな脚光を浴びるようにと、慈父のように暖かい手をさしのべて下さったかずかずを想い出しながら、今、三十歳の働き盛りの大台を迎えられました貴協会の大きな足跡をしのび、今後その幅広い活動をしっかり定着させられ、円熟した活動をとおしてゆるぎない地盤を築かれますよう心から祈りあげます。

また、貴協会発展の中心でいらっしゃる辻野理事長さまが、今もご健康で、衛婦の理事会の折など、健康づくりのため城東庁舎の七階ロビーで、足を鍛えられるお姿を垣間みたりすることがございますが、どうぞ、この上とも健康管理にご留意なさいまして、職員みなさま方の心の支えとして、また、防疫協会の象徴として、ご長寿とご活躍を心からお祈り申しあげます。